

福祉犯罪から子どもを守る

町文化会館で保護者など対象に教育講演会

町と町教育委員会が主催した教育講演会が11月27日、町文化会館で開催されました。

護者など252人の参加がありました。

県警察から出向中の県教育庁高校教育課の石井朋子氏を講師とした講演会は、「子どもたちの健やかな成長を願って、少年非行の現状と課題」をテーマに開催され、小中学生の子を持つ保

開会後のあいさつで住永町長は「この町から少しでも犯罪をなくし、子どもたちがすくすく成長できる町をつくっていききたい」と、子育てに対する想いを語りました。

講演で石井氏は、平成24年度の県内の犯罪情勢、万



自らが担当した事件などを例に熱弁をふるう石井氏

引き、自転車盗、援助交際などに見られる少年非行の件数や現状を紹介。実際に石井氏が担当した福祉犯罪(※)事件を事例として話し、犯罪を繰り返してしまいう子どもの内面や子どもを取り巻く環境に潜む危険性を訴えました。「ごく普通の家庭に育った子どもでも、非行から始まり、薬物使用まで至ったケースがある。薬物使用や援助交際などの福祉犯罪は、



子どもが関わる悪質な犯罪事例に聞き入る参加者

被害者である子どもが自ら行っていることなので発覚しづらく、警察で事件として摘発しているものは氷山の一角に過ぎない」と石井氏。「親や周りから認めてもらえない子どもは、目立とうとして、非行に走りやすい。子を持つ親になったなら『子どもを認める』ことの大切さに気付いてほしい」と訴えました。

※福祉犯罪…

子どもに「わいせつな行為をする」「売春を強要する」「シンナーや覚せい剤を密売する」など、子どもの心身に有害な影響を与え、健全な育成を阻害する犯罪。

昔話で人生振り返る

心理療法「回想法」で地域を活性化



懐かしいゴム縄跳びに挑戦する受講生

交流情報センターミナテラスで11月12日、回想法のトレーナーを養成し、地域に貢献しようとして、町ボランティア連絡協議会(吉村静代会長)主催の「地域回想法トレーナー養成講座」が行われました。

回想法とは、昔話で人生をもう一度振り返り、自分の人生を再評価する心理療法のことです。うつ病や認知症の予防などの効果が期待されます。

養成講座は全4回。ゴム縄跳びやメンコなどの昔の遊びをしたり、昔の薬箱を見て、当時の思い出を受講生同士語り合いました。

吉村会長は「認知症予防に加えて、高齢者の昔話など、記憶の資源化もできる。積極的に活動したい」と話しました。今後は、地域サロンなどで幅広く活用されるそうです。